

大型スクリーンなど寄贈

東京 亀城会 母校・酒東高創立100周年記念

東京亀城会(元木徹会長)は20日、酒田市の酒田東高校(大山慎一校長、生徒550人)に大型スクリーンとステージ幕を寄贈した。

同会は同校の前身である県立酒田中学校第1回卒業生を中心に発足。現在は同校OB・OGら関東一円の約3000人が会員となり、節目の年に記念品を贈るなど交流している。

同会では同校が昨年10月に創立100周年を迎えたことを機に、永く同校に残るものを贈ろうと2010

(平成22)年から「母校創立100周年記念事業基金」を設立して募金活動を展開するなど準備を進めてきた。

今回寄贈したのは体育館ステージ用350インチの電動大型スクリーンと、幅14・5㍎、高さ8㍎の白色の布製ステージ幕。幕はステージ後方をカバーするもので、校歌にも歌われ、酒東精神が凝縮されているという「愛あり仁ある人となる」の一文を金の刺繍で縫い込んだ。

この日は元木会長ら同会

役員2人が同校を訪れ、大山校長に目録を手渡した。大山校長は「本当に素晴らしいものを頂いた。現在はオンラインの学びがますます

す広がっている。全校生徒が世界の人とつながって勉強できるのは大変ありがたい」とお礼を述べ、元木会長は「今年24日に東京亀城



会が企画した講演会をオンライン配信して見てもらう予定。その他にも色々な面で活用してもらえれば」と話した。

元木会長(左)が大山校長に目録を手渡した